

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 中村 紀友喜

論 文 題 目

Mortality and neurological outcomes in extremely and very preterm infants born to mothers with hypertensive disorders of pregnancy

(妊娠高血圧症候群を発症した母から産まれた早産児の神経学的予後)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

高橋 義行 

名古屋大学教授

委員

岡田 広夫 

名古屋大学教授

委員

今釜 史郎 

名古屋大学教授

指導教授

梶山 広明 

論文審査の結果の要旨

別紙 1-2

今回新生児臨床研究ネットワーク・データベースを用いて、在胎 32 週未満の早産児において母の妊娠高血圧症候群（HDP）が児の神経学的予後に与える影響について検討した。HDP を発症した母から産まれた児（HDP 群）は、HDP を発症していない母から産まれた児（non-HDP 群）と比較し、死亡、脳室内出血、脳室周囲白質軟化症、3 歳時の脳性麻痺が減少した。在胎 28 週未満、在胎 28～31 週の 2 群に分けて実施したサブ解析でも、HDP 群では神経学的予後不良のリスクが低かった。HDP を発症した母から産まれた児は、HDP を発症していない母から産まれた児と比較し、神経学的予後が良好であった。

本研究について、以下の点を議論した。

1. 本研究では、対照群である non-HDP 群も早産児であるため、正常コントロールではない。早産となった理由が児の神経学的予後と関連している可能性があるが、本データベースでは各症例が早産となった理由の詳細は不明である。non-HDP 群には早産理由も含めて予後不良な症例が多く含まれていた可能性がある。本研究では先天形態異常や染色体異常を除外し、non-HDP 群に多い絨毛膜羊膜炎について調整した多変量解析を行った。本研究では、児の神経学的予後に大きく影響するこれらの因子について検討した上で、HDP 群の神経学的予後が良好であった。
2. 本研究では既報で知られている糖尿病合併妊娠/妊娠糖尿病、組織学的絨毛膜羊膜炎、出生前ステロイド投与、分娩方法、児の性別、出生体重を共変量とした。いっぽうで、本研究で共変量とした因子以外にも、HDP の重症度、母への硫酸マグネシウム等の薬剤投与の有無、新生児期の合併症や治療も児の神経学的予後に影響する可能性がある。しかし本データベースではこれらの因子についての情報は取得されておらず、この点は本研究の limitation である。
3. 本研究の結果から、在胎週数、出生体重等の背景が同じ場合、母に HDP がない場合と比較し、HDP があるほうが児の神経学的予後が良好であるとの情報を提供できると考えられる。いっぽうで、在胎週数や出生体重が大きくなるほど児の神経学的予後は良くなる。そのため本研究の結果は、母に HDP がある場合の児の早期娩出を推奨するものではない。HDP の病勢コントロールが可能であれば、児の神経学的予後向上のために妊娠を継続するべきである。

本研究は、HDP を発症した母から産まれた児の神経学的予後を考える上で重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	中村 紀友喜
試験担当者	主査	高橋 義行	副査 ₁	内田 広夫
	副査 ₂	今釜 史郎	指導教授	梶山 広明
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 対照群も妊娠高血圧症候群以外の要因による早産児である点について2. 統計解析に用いた共変量について3. 本研究結果の臨床における有用性について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、産婦人科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				